

令和7年度 教科研修会Ⅱに向けた授業の構想

社会科

1 社会科の研究テーマ

社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を高める学習の在り方

2 研究テーマに示す力が高まっている生徒の具体の姿

- ・「長く続いた平安時代につながる飛鳥・奈良時代は、どのような特色があるのだろうか。」という問いについて、政治や人々の生活・文化に着目して多面的・多角的に考察し、自分に生かせそうなことをまとめている姿 (1学年、「歴史的分野」)
- ・「北海道・九州地方の人々は、厳しい自然環境の中でどのようにして暮らしているのだろうか。」という問いについて多面的・多角的に考察し、長野県の自然災害への対策や自然環境の活用について自分の考えをまとめている姿 (2学年、「地理的分野」)
- ・「現代社会における国際問題を解決するために、将来の私たちができそうなことは何だろうか。」という問いについて、解決すべき課題を多面的・多角的に考察し、主権者としてどのように働きかけるのかについて、自分の意見や考えをまとめている姿 (3学年、「公民的分野」)

3 単元名・学年 「飛鳥・奈良時代の特色を捉えよう」・1年

4 単元の概要 (全8時間扱い 本時は第5時)

単元の学習問題

長く続いた平安時代につながる飛鳥・奈良時代は、どのような時代なのだろうか。

単元展開

時間	学習活動
第1時	<p>◆導入資料から、単元の学習問題を設定する。</p> <p>【単元の学習問題】長く続いた平安時代につながる飛鳥・奈良時代は、どのような時代なのだろうか。</p> <p>◆導入資料や単元の学習問題への予想を基に、調べる内容を検討する。</p>
第2時	<p>◆飛鳥・奈良時代の政治・人々の生活・文化に着目して、資料を基に考察する。</p> <p>【学習問題】聖徳太子や蘇我氏は、どのような国づくりをしたのだろうか。</p> <p>【学習課題】中心となる身分や東アジアとのつながり、政治の仕組みに着目して、これまでの日本と比較して考えよう。</p>
第3時	<p>【学習問題】中大兄皇子や中臣鎌足はどのような改革をしたのだろうか。</p> <p>【学習課題】東アジアとのつながりや政治の仕組みに着目して、聖徳太子の政治と比較して考えよう。</p>
第4時	<p>【学習問題】律令国家の仕組みと、そのよさはなんだろうか。</p> <p>【学習課題】中心となる身分や支配の仕組みに着目して、これまでの日本と比較して考えよう。</p>
第5時 (本時)	<p>【学習問題】なぜ、奈良時代の人々の生活には格差があったのだろうか。</p> <p>【学習課題】身分の違いに着目して、当時の人々の生活と関連付けて考えよう。</p>
第6時	<p>【学習問題】律令国家は、本当に「よい」仕組みだったのだろうか。</p> <p>【学習課題】立場による違いに着目して、律令国家の利点や欠点を議論しよう。</p>
第7時	<p>【学習問題】飛鳥・天平文化にはどのような特色があるのだろうか。</p> <p>【学習課題】二つの文化の共通点や相違点に着目して、比較して考えよう。</p>
第8時	<p>◆単元の学習を振り返り、単元の学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>◆本単元の学習を基に、自分に生かせそうなことを考える。</p>

社会科学習指導案

令和7年7月16日(水) 5校時 1年A組教室

授業学級 1年C組(35名)

授業者 内藤 大貴

- 1 単元名 「飛鳥・奈良時代の特色を捉えよう」
- 2 主眼 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している
奈良時代の人々の生活に格差があった理由について考える場面で、資料を基に身分の違いに着目して、当時の人々の生活と関連付けて考えたり、特に負担が大きいと考えられる税を友と話し合ったりすることを通して、律令国家において、庶民は重い税を負担し、貴族は豊かな生活を送ったことで、格差が広がったことを理解することができる。 【B(1)ア(ウ)】
- 3 単元の学習問題：長く続いた平安時代につながる飛鳥・奈良時代はどのような時代なのだろうか。
- 4 本時の位置(全8時間中 第5時)
前時：律令国家の仕組みやよさについて、これまでの日本と比較して考察した。
次時：律令国家は、本当に「よい」仕組みだったのかについて、友と議論する。
- 5 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 導入資料から、学習問題を設定する。	ア 料理の写真をみると、豪華な食事と、質素な食事がある。服装もそうだ。住居はとても広いものと、竪穴住居のようなものがある。なぜ、奈良時代の人々の生活には、このような格差があったのだろうか。	・導入資料「奈良時代の人々の生活の様子」を提示する。 ・気付いたことや疑問を問い、アのような発言から、学習問題を設定する。	4分
	2 予想を基に、学習課題を据える。	イ 前時では、貴族は高い給料がもらえたことが分かった。逆に低い身分の人々はお金がもらえず苦しい生活をしていたのではないか。身分の違いが関係していると思う。	・学習問題に対して予想を促すように促す。 ・イのような発言から、学習課題を据える。	6分
展開	3 資料から読み取ったことをワークシートに記入し、全体で共有する。	ウ 戸籍に登録された6歳以上の男女は、性別や身分に応じて口分田が与えられ、その面積に応じて税を負担したと分かった。 エ 一般男性は調・庸や兵役の義務も負担した。一方、貴族たちはそれらの税が免除されて、高い給料や土地を与えられたということも分かった。 オ さまざまな税があるが、防人は3年間も九州に行くから、家族と離れて暮らさなければならず、特に負担が大きいと思う。	・教科書や資料集、配付資料から読み取れることを、ワークシートに記入するよう促す。 ・追究が進まない生徒には、人々の身分や税の種類に着目するように伝える。 ・オのような生徒の反応から、人々にとって特に負担が大きいと考えられる税をグループで話し合うように促す。	25分
	4 奈良時代の人々にとって、特に負担が大きいと考えられる税についてグループで話し合い、全体で共有する。	カ Mさんは、租は6歳以上の男女が負担しなくてはならないが、3%ならそこまで苦しくはないと言っていた。それなら、公出挙の強制的な貸し付けの方が嫌だと思う。 キ Hさんは、調・庸は男子しか負担しなかったが、都から故郷に帰れない程の病気や飢えに苦しんだ人もいたと言っていた。調・庸は都から遠くに住む人々にとって特に大変だと考えられる。また、貴族は調・庸を負担しておらず、給料も高く安全で豊かな生活を送っていたが、その他の身分の人々は厳しい生活を送らされていた。	・話し合う際には、どの資料を根拠として考えたのかを示すことを確認する。 ・特に負担が大きかったと考えられる税の見当がつかないグループには、税の内容や、その税による影響に着目して考えることを伝える。 ・税に苦しんだ人々がいる一方で、免除された税がある貴族や役人の生活に着目した意見も取り上げる。	8分
終末	5 本時の学習を振り返り、まとめをする。	ク 貴族以外の身分では、重い税負担から逃亡する人々や、調・庸によって病気や飢えに苦しむ人々、家族から離れて任務につくことを悲しむ人々がいた。一方、貴族や役人は高い給料や土地が与えられるだけでなく、いくつかの税が免除され、豊かで安全な生活を送ることができた。このように、身分の違いにより人々の生活に格差が生じた。	・本時の学習を振り返り、格差があった理由について分かったことをまとめ、ロイロノートに記述するよう促す。 律令国家において、庶民は重い税を負担し、貴族は豊かな生活を送ったことで、格差が広がったことを理解している。(ロイロノート)	7分